

## 第2回 笠間市「道の駅」整備推進協議会議事要旨

【日時】2018年1月24日 15:00～

【場所】笠間市役所 庁議室

【出席者】

(1) 笠間市「道の駅」整備推進協議会 委員

立教大学 観光学部 教授・観光学科長

観光研究所所長

東徹

株式会社パーティー・フー代表取締役

(国土交通省道路中期計画有識者メンバー)

石井みな子

食空間コーディネーター

(文教大学 非常勤講師)

田渕弘子

武蔵野美術大学 基礎デザイン学科 非常勤講師

白濱力

オフィスフレール代表 フードアドバイザー

(笠間市ブランディングアドバイザー)

藤原浩

茨城交通株式会社 執行役員運輸部長

飛田潔

常陽銀行友部支店長

水上浩

常陸農業協同組合 代表理事副組合長

南指原賢治 (欠席)

常陸農業協同組合 笠間地区直売所生産部会部会長

柴田良一

一般社団法人 笠間観光協会会長

本間敬

笠間市区長会会長

大津廣司

笠間アグリビジネスネットワーク協議会 会長

永田良夫

笠間市市議会議員

小松崎均 (欠席)

笠間市市議会議員

橋本良一 (欠席)

笠間市副市長

久須美忍

笠間市市長公室長

塩畑正志

笠間市総務部長

中村公彦

笠間市産業経済部長

米川健一

笠間市都市建設部長

大森満

笠間市農業公社事務局長

内桶克之

(2) 笠間市「道の駅」整備推進協議会 事務局

笠間市産業経済部農政課長

金木雄治

笠間市産業経済部農政課農政企画室長

田中博

笠間市産業経済部農政課 主査

大嶋信二

(3) コンサルタント

|                   |       |
|-------------------|-------|
| 三井共同建設コンサルタント株式会社 | 高橋恵一  |
| 三井共同建設コンサルタント株式会社 | 芳賀章   |
| 三井共同建設コンサルタント株式会社 | 江内谷義信 |
| 三井共同建設コンサルタント株式会社 | 岡部義諒  |
| 三井共同建設コンサルタント株式会社 | 山田沙知  |
| 株式会社計画・環境建築       | 吉田眞   |
| 株式会社計画・環境建築       | 桜井寛   |

【議事】

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 報告

(1) 第1回整備推進協議会の意見要旨について

[事務局より前回協議会の意見と今後の検討について説明。]

(東会長)

- ・ 前回協議会の意見と今後の検討について質問・意見はあるか。

(内桶委員)

- ・ 意見のまとめに関して、実際には道の駅の機能としての強弱があると考え。意見が出た機能の中で、コンセプトに強く表現する機能と、機能自体はあるがある程度の表現に留める機能があると考え。例えば「地域のコミュニティの核としての道の駅」とあるが、地域のコミュニティはコミュニティセンターや交流センターが既存にあるので、道の駅にコミュニティの機能が若干あっても、強くは表現しない方が良く思う。道の駅の特徴を出すために機能に強弱を出していくことが好ましい。

(白濱委員)

- ・ 意見のまとめ中の滞在機能に関して、これは議題に挙げるか否かも含め検討していただきたいのだが、昨今、SA や道の駅で車中泊が増加している。それを積極的に推進して取り入れていくのか、排除していくのか、そのような判断も今後の道の駅において重要な事項と考える。

(東会長)

- ・ いろいろな自治体が車中泊専門施設のオートキャンプ場整備を取り組んだのだが、

現状認知度が低い。それは道の駅の利便性が高いため道の駅で車中泊することが多い。コンビニが敷地内に整備されるとますます道の駅における車中泊の利便性が高まる。車中泊を奨励はしないが考えておくべきなのか、笠間の道の駅はそれを大々的に打ち出していくのか、問題提起として議論しておくべきである。

(石井副会長)

- ・ 現実に道の駅の情報コーナーで寝てしまう方がいて店員の方が困っているのを見かけた。それをどこまで許容するのか重要である。

(米川委員)

- ・ 車中泊に関して、笠間市では、道の駅計画地から 2km 弱のところ北山公園がある。そこにはバーベキュー場と併設でオートキャンプ場が整備されている。道の駅が車中泊できるスペースということではなくて、北山公園のオートキャンプ場に誘導するような方向で進められればと考える。

(東会長)

- ・ どこで車中泊をするか決めるのは利用者であり、施設がこれからできる道の駅の方が有利である。お客さんと観光客の利便性を考えて、あの施設もこの施設もとなると道の駅の車中泊利用者が増えると考えられる。車中泊を無理やり排除するのではなくて、利用者としてそのような人もいとう前提で住み分けていかないと、道の駅の車中泊を禁止し、北山公園に誘導するのは難しいと考える。

(白濱委員)

- ・ 台数限定で有料にするという手段もあると考える。

(東会長)

- ・ 現実として存在することをどうやって我々は方針として見ていくか、好ましくないと見るのか、限定的に許容するのか。議題にしたい。

(塩畑委員)

- ・ プロジェクトチームの中で出た意見なのだが、笠間市は健康都市宣言をしており、健康づくりに対する機能を付け加えた方が良くと意見があった。道の駅と健康づくりをどのように絡ませるかはあるが、例えばレンタサイクルのベースにし、周辺地を周遊する機能を持たせるなどが挙げられる。コンセプトの中に入るかわからないが議題に挙げていただきたいと考える。

(東会長)

- ・ 上位概念として「健康」があるが、それをあらゆる施設に落としていかなければならないわけではないと考える。ある程度コンセプトは包括的だが特色あるものをつくり、機能としては有るけどこの程度、あるいはこれは大々的にいくなどメリハリをつける仕組みが必要である。理念があって、機能があって、そこには強弱があるという考え方をし、その強弱に従ったハードウェアとソフトウェアの整備という階層でものを考える必要がある。
- ・ 観光の委員会でも出た意見の中で、交通手段として車を使った観光は点をたどるだけであり、笠間はもっと歩く観光をすべきという意見が出た。そのような話が出たので道の駅をゲートウェイの拠点として、自転車に乗り換える機能なども考えられる。

(石井副会長)

- ・ 笠間市で特に推進しているスポーツはあるか。

(塩畑委員)

- ・ ウォーキング道路の整備を行っている。

(東会長)

- ・ 観光客にやさしいということは市民にもやさしいということであると考え。歩くまちを考えると、道の駅で車を止めてまちへ促すとするとゲートウェイとしての役割が必要である。車を止めて歩きたくなるような情報を提供すべきである。

## (2) WEB 調査の報告について

[事務局より WEB 調査の報告について説明]

(東会長)

- ・ Web 調査の報告について質問・意見はあるか。

(内桶委員)

- ・ 女性の視点が重要になっている中、調査の段階で女性の回答者が少ない。個人的には食べ物の好みなど男女で変わってくると考えている。蕎麦というと男性好みが多いと考える。例えば栗を使ったスイーツは女性の方が好むと考える。
- ・ 蕎麦屋が笠間にはすごく多い。道の駅で蕎麦をやるのではなくて、道の駅に周辺の蕎麦屋の紹介機能を持って、そこに流す仕組みが必要である。女性の視点でいうと、栗を使ったスイーツがあると女性を呼び込みやすい。

- ・ いちご狩りやブルーベリー狩りなど笠間の四季を通じた果実狩りができるというようなコンセプトが良いと個人的に考える。

(東会長)

- ・ 観光の委員会でも出た意見の中で、栗が名産であるのにブランド力が無い。笠間の栗のブランド化のためには、観光体系を上手く使うことや、あるいは「名物」として、お菓子屋さんが高くてもいいからわざわざ買いに来るものをつくってほしいけど作ってくれないという意見が出た。
- ・ 道の駅を地域のショールームとして考えると焼き物のミュージアムも必要であろうし、栗を使った名物づくりも必要であると考ええる。

(石井副会長)

- ・ 職場の女性と話していても栗は女性にとっても人気がある。道の駅で笠間の栗のブランド化・商品化を行い、情報発信を行えたら良い。

(東会長)

- ・ 栗を使ったスイーツを名物として作ることは地域のショールームとしての役割を果たせる。また企業の方をサポートできるという意味では地域の支援にも成り得る。そのような考え方で地域の良さを活かす、それを見せる場として機能すれば良い。

(藤原委員)

- ・ 県外の観光客を増やすには栗のような強いコンテンツが必要である。笠間は生産量としては日本一というのは有名だが、品質も日本一だと打ち出すべきである。
- ・ 笠間の栗が営業ツールで広告マンに成り得る。値段を高く設定して儲けることが出来なくても広告費として元が取れると考える。固定概念とか既成概念を壊す、創造的・破壊的な価値観というのもコンセプトの会議の段階では忌憚なく出していったら良いと考える。

(東会長)

- ・ 道の駅をどう魅力するか、それと同時に道の駅がどうまちの魅力に貢献できるか、2つの考え方を同時に進めていくべきである。

(石井副会長)

- ・ 女性は大変ロコミ力が高い。ロコミ力に乗るというポイントも重要である。総花的にやるのではなくて情報発信でも有効な手段を選択するべきである。

(白濱委員)

- ・ 道の駅は車で来訪することを考えると、駐車場が非常に重要な機能なのではないかと考える。夏場の温度を2~3度下げる塗装や、雨脚が大きいときにも濡れにくい透水性が高い塗装、それに加え近年、芝生と舗装面をあわせた駐車場も手法もある。駐車場にもいろいろな工夫が舗装で可能なため、駐車機能の快適性や観光地としての魅力を駐車場機能で向上できると考える。

(本間委員)

- ・ 電気自動車の普及が進み EV 充電器は今後重要になってくる。また市内には EV 充電器はほとんどない状況である。

(東会長)

- ・ ドライバーにとって快適で優しいというベースの機能強化が必要である。コンセプトとして華々しく言わないけど根っ子の部分として利用者のことを考えることは必要である。

(大森委員)

- ・ いろいろな道の駅を見たが情報発信施設には人が少ないことが多かった。今回整備する道の駅については効率的な施設の検討を行って頂きたい。

(東会長)

- ・ 道の駅はターゲットを絞った商品ではないので、様々な利用形態に対して対応していかなければならない。利用者に合わせた利便性・機能をメリハリつけてつけることが重要である。

(永田委員)

- ・ 外国人観光客を呼ぶということも考えていくべきである。

(東会長)

- ・ 外国人対応としての機能も観光客に優しい道の駅ということに成り得る。例えば民泊の拠点として道の駅にフロント機能を置くなど、市民が考える観光活動に対する支援施設というのも大事な機能と考える。

(石井副会長)

- ・ 女性は有名な観光地に行き飽きて、自分しか知らない場所を見つきたいという状

況にある。とても親切に案内する方がいらっしゃれば今すぐにでも観光客は増えると思う。

(東会長)

- ・ コミュニティの核というのは市民が活躍できる舞台としての道の駅として捉えることが好ましい。

#### 4. 議事

##### (1) 笠間市「道の駅」コンセプト（案）

[事務局より笠間市「道の駅」コンセプト（案）について説明]

(東委員長)

- ・ 笠間市「道の駅」コンセプト（案）について質問・意見はあるか

(柴田委員)

- ・ 道の駅のメインは直売場であると考えている。コンセプトは直売所を中心として考えてほしい。

(東会長)

- ・ 直売所が道の駅にとって重要でありコアな機能であることは、全員が認識している。しかし、コンセプトとなると「直売所を中心とした施設をつくる」とは書けない。「食文化」や「食の豊かさ」と記載する事が望ましい。

(藤原委員)

- ・ 笠間の売りとなる地域資源に優先順位を付けて、「笠間とは何か」を決めることが重要である。「笠間はこれだ」という売りにお客様が興味を持ち、道の駅に訪れた時に、他にも沢山の地域資源がある事を知るというストーリーを目指す必要がある。例えば「笠間の自然の豊かさや人の温かさ」は、人を呼び込むには弱いため、優先順位は低くなるだろう。エッジの効いたキャッチコピーなど、売りになるもので勝負する必要がある。

(石井副会長)

- ・ 道の駅はどこも似たようなものが多く、印象に残らない。テーマを1つに絞ることは絶対必要である。

(中村委員)

- ・ 資料 P. 12「主に地元の人を呼び込む」とあるが、「主に」と表現すると地元優先の印象が強くなるため、「地元の人も含め多くの人を呼び込む」という表現の方が望ましい。

(藤原委員)

- ・ 道の駅の年商はどのくらいを想定しているのか。

(事務局)

- ・ あくまでもプロポーザルで提案頂く為に設定した金額であるが、全体で6億から7億を想定している。

(藤原委員)

- ・ 笠間の農産物だけでは6億には届かない。笠間以外の農産物も販売するか否かで、コンセプト作りは大きく変わってくる。
- ・ 牛久のドキドキファームでは、年商を7億から10億に上げるために、商品のラインナップをかなり増やした。笠間の商品だけでどのくらい年商が得られるのか、シミュレーションする必要がある。コンセプトを検討する上で非常に大事なことである。

(東委員)

- ・ 地元中心だけではビジネスにならないという意識も必要である。

(柴田委員)

- ・ 課題はあるが、笠間の農産物だけで年商7億を目指していきたいと考えている。

(東会長)

- ・ 農家が地元産の野菜を作りたいと、意欲を掻き立てるような仕組みを検討する必要がある。売り上げ目標を達成するために商品を寄せ集めれば良いという考えは望ましくない。

(石井副会長)

- ・ 栗が販売される期間はどのくらいなのか。

(事務局)

- ・ 生栗は8月の中旬から11月頃である。笠間は生栗を日本で一番長く提供できる郷を目指している。



## (2) 笠間市「道の駅」機能導入について（事例）

### [事務局より道の駅の機能について説明]

（東委員長）

- ・ 笠間市「道の駅」機能導入について（事例）について質問・意見はあるか。

（藤原委員）

- ・ 各事例について、年間の売上額がざっくりで良いので知りたい。

（中村委員）

- ・ 整備費についても知りたい。

（内桶委員）

- ・ 情報発信機能は、カフェに併設するなど、うまく活用されるような仕組みが必要である。

（石井副会長）

- ・ 道の駅は身近な空間づくりが必要である。
- ・ イベントは、道の駅がオープンすると同時に、テンポよく開催できるよう計画する必要がある。それによってイベントスペースの規模もかわってくるだろう。

（藤原委員）

- ・ 道の駅は利用者と搬出入の作業者の動線が同じであることが多い。利用者に悪い印象を与えかねないので、動線は分けた方がいい。

（東会長）

- ・ 利用者、運用側にとっても使いやすい施設になるために必要な機能を具体的に検討していきたい。

（藤原委員）

- ・ 駐車場のはできるだけ段差がない方が良い。駐車場に段差がなく停めやすいことから、スーパーカー愛好家が数十車単位で訪れるようになり、地域のイベントに発展した事例がある。

（石井副会長）

- ・ インターネット上で、駐車しやすい駐車場の情報は共有されている。人に対してだけではなく、車に対してのバリアフリーも必要である。

(東会長)

- ・ 道の駅を考える場合、多様な利用者を想定し、それぞれに必要な機能を整理する必要がある。

### (3) その他

(大津委員)

- ・ 地元は道の駅に期待している。笠間の自然を残し、感じられる道の駅になってほしいという意見があった。

## 5. 閉会

以上